

研究授業に向けての手順が分かる

「授業づくりチェックシート」の開発

神田京子（高岡市立成美小学校）・高橋純（東京学芸大学）

概要：教員の授業力向上を目指し、OJTを生かした校内研修を実施するために、研究授業に向けての手順を明らかにした「授業づくりチェックシート」を開発し、実際に活用して研究授業を行い改善した。本チェックシートを用い、全教員が研究授業の進め方について共通理解したところ、若手教員は見通しをもって研究授業を行い、中堅・ベテラン教員による授業力の向上にOJTが促進された。

キーワード：校内研修，若手教員，研究授業

1 はじめに

「教員勤務実態調査（平成 28 年度）の集計（速報値）について」（文部科学省 2017）の調査対象となった全国の小学校 397 校、8591 名の教員の年齢構成を見ると、30 歳以下の教員の割合（25.9%）が最も高く、10 年前と比べると 10 ポイント以上増加し、若手教員が急増している現状が分かる。勤務校においてもその傾向が見られ、30 歳以下の教員は、37%、35 歳以下になると 56%にもなる。若手教員が増えることは、活気がある学校づくりにつながる一方、教員の指導力の向上等、学校運営上の課題の一つにもなっている。

勤務校では、教員の指導力の向上を目指した校内研修の充実に努めている。OJTを生かした低中高学年部会を中心とした研究授業を計画的に行うとともに、継続的に外部からの参加者を交えた公開校内研修会を実施してきた。

しかし、校内研修を進める中で、各部会の主務者から若手教員の研修の様子について、

- ・授業者として、部会研修に向けてどのような準備をすればよいのか分かっていない
- ・部会研修の意味や授業づくりへの生かし方が分かっていない

などの指摘がなされ、中堅・ベテラン教員と若手教員との研究授業の進め方に対する認識の

差があることが分かった。

そこで、その差が少しでも埋まるようにするために、「部会研修までにどのような準備を行うのか」、「部会研修はどのような目的で何を行うのか」、「部会研修の結果を授業づくりにどのように生かすのか」など、研究授業に向けての進め方について全教員が共通できるような手順を示すことが有効ではないかと考えた。

2 目的

研究授業に向けての手順が分かる「授業づくりチェックシート」を開発し、聞き取りや実施・評価を通して、その改善を図る。

3 方法

まず、研究主任として関わった平成 28・29 年度の校内研修を振り返り、「授業づくりチェックシートⅠ」を開発した。

次に、平成 30 年度の公開校内研修での授業者の意見を基に、「授業づくりチェックシートⅠ」見直し「授業づくりチェックシートⅡ」を開発した。

さらに、平成 30 年度前期公開校内研の実施の過程で「授業づくりチェックシートⅡ」を実際に活用し、その成果と課題を検討し「授業づくりチェックシートⅢ」を開発した。

4 授業づくりチェックシートⅠの開発

4.1 授業づくりチェックシートⅠの作成

これまでに行ってきた研究授業のための部会研修から、授業づくりの際に欠かせないと思われる内容と話題になったことをまとめ、「授業づくりチェックシートⅠ」を開発した(図1)。

内容	話題にしたこと
① 教科・単元の決定	児童に付けたい力・教師が挑戦したいこと
② 指導案を書く	教材分析・指導のポイント
③ 本時の指導案を書く	模擬授業 見通しをもつ
④ 導入を考える	課題の持たせ方 模擬授業
⑤ 毎時間の授業を考える	模擬授業 ノート 板書 教材 掲示物
⑥ 毎時間の振り返り	教師の立ち位置 机間指導 話し方 掲示物
⑦ 本時のトライ	他の教室を使つての授業研究
⑧ 事前研修	全体での共通理解 最終チェック
⑨ 本時の練習	トライをもとに確認 模擬授業 練習
⑩ 研究授業	児童の観察 授業記録
⑪ 事後研修	授業の振り返り(全体・部会・学年)

図1 授業づくりチェックシートⅠ

「④導入を考える」では、どのような資料を提示するか、どのような体験を取り入れるか、教師はどのような発問をするのか等、具体的に模擬授業で検討する。児童に課題意識を持たせ、学習への興味・関心を高める大事な場面である。

「⑤本時に至るまでの授業を考える」は、例えば、国語科の研究授業の本時が全体計画9時間分の5時間目だとしたら、1～4時間の各授業にあたる。

「⑥普段の授業を参観してもらい、振り返りをする」は、「⑤本時に至るまでの授業」を参観することが多い。普段の教室の状態を部会メンバーの教員や管理職に参観してもらい、児童や学級経営を把握し、指導案で計画した学習の手立てや学習内容、教師の授業技術について部会で検討し見直すのである。

「⑦本時のトライ」は、研究授業そのものと同じ学年の他の教室で行ってみる段階である。同じ学年の教員が指導案通りに授業する師範授業と、授業者が他の教室で授業する、模擬授業等がある。

4.2 授業づくりチェックシートⅠの評価

作成した「授業づくりチェックシートⅠ」が分かりやすいか、内容が適切であるかを知るために、平成29年度の授業者4名(教員経験2年目、3年目、7年目)に対して以下の3つの質問についてインタビューした。

- ・質問1：手順についてはこれでよいか。
- ・質問2：部会研修で学ぶことが多かったと感じたことはどの内容か。
- ・質問3：部会研修で大変だと感じたことはどの内容か。

その結果、手順については、不都合だったという意見は特になかった。「部会研修で学ぶことが多かった」のは、④⑤であった。模擬授業を通して細やかに授業の進め方や授業技術を学ぶことができたという感想である。「部会研修で大変だと感じた」のは②③④⑨である。特に、②③の指導案作成の段階は大変だったという感想だった。④⑨は研究授業本時に関わる模擬授業なので当然だと思われたが、「⑤の『毎時間の授業を考える』を部会研修で検討していれば⑨は大変ではなかったはずだ」と、授業者同士で指摘しあう場面があった。

4.3 授業づくりチェックシートⅠの見直し

授業者の意見から、「授業づくりチェックシートⅠ」の見直しについて検討した。

研究授業に向けての手順は11の内容でよいことが分かった。手順の中で、指導案作成が大変な段階だという意見から、授業者と部会研修のメンバーに指導案作成の手順と内容をより具体的にし部会研修の内容を共通理解すれば、部会研修でのOJTが効果的に働くのではないかと考えられた。また、「指導案を作成」、「研究授業当日まで」、「当日と事後研修まで」の段階の3段階を見やすく分類すれば、授業者がより見通しをもって指導案の作成を計画的に行うことができると考えた。

5 授業づくりチェックシートⅡの開発

5.1 授業づくりチェックシートⅡの作成

4.2 のインタビュー調査の結果の検討を基に見直し、「授業づくりチェックシートⅡ」(図2)を作成した。

「授業づくりチェックシートⅠ」から見直したことは、次の3点である。

- ・「話題にしたいこと」を部会研修のメンバーと授業者がチェックしやすいように、より具体的な項目にする。
- ・指導案作成から事後研修までを3つの段階に色分けし、見直しをもてるようにする。
- ・平成30年度の6月の公開校内研修会に向けて実際の日程を記入し計画的に進めることができるようにする。

内容	話題にしたいこと	日
① 教科・単元の決定	児童の実態・教師の願い・学習内容	5/2
② 指導案を書く	単元の目標・学習指導要領・学習課題・学習活動	5/21
③ 本時の指導案を書く	学習課題・振り返り・授業の展開 模擬授業	6/1
④ 導入を考える	学習課題の設定・学習活動 模擬授業	6/4
⑤ 毎時間の授業を考える	ノート 板書 教材 掲示物 模擬授業	6/22
⑥ 普段の授業を参観する	教師の立ち位置 机間指導 発問 掲示物	
⑦ 本時のトライ	他の教室を使つての授業研修	6/22
⑧ 事前研修(全体研修会)	共通理解 最終チェック	6/25
⑨ 本時の練習	発問・板書・指名の確認 模擬授業 練習	6/28
⑩ 研究授業	児童の観察 授業記録	6/29
⑪ 事後研修	授業の振り返り(全体・部会・学年)	6/29

図2 授業づくりチェックシートⅡ

5.2 授業づくりチェックシートⅡの評価

「授業づくりチェックシートⅡ」(図2)を部会研修で活用し、効果があったかを授業者1名(教員経験4年目)にインタビューした。なお、質問は、4.2と同じである。

その結果、①～⑨手順(図2)については今回も「不都合だった」という意見は特になかった。「部会研修で学ぶことが多かった」と答えたのは、④⑤⑦であった。また、前回のインタビューより「⑦本時のトライ」が増えていた。前もって「本時のトライ」を行うことを知り、見直しをもっていたかどうかで、より主体的に取り組むことができたのではないかと考えられた。

一方、「部会研修で大変だと感じたこと」は、

②③⑦と前回より減少した。前回と比べて「⑨前日に行う本時の練習」がなくなったのは、授業者が見直しをもって注意して取り組み、部会研修としても話し合いの論点が焦点化された結果だと推測された。このように、見直しをもつという点では、「授業づくりチェックシートⅡ」を活用したことは、効果があったと考えられた。

5.3 授業づくりチェックシートⅡの見直し

授業者の意見から、「授業づくりチェックシートⅡ」の見直しについて検討した。

「授業づくりチェックシートⅡ」を利用して、②③の部会研修は「部会研修で学ぶことが多かった」とはならなかった理由について、部会研修の主務者と共に検討した。

その結果、次の2つの意見が出された。

- ・指導案を書くときの手順は人によって違う。①～④は順番や日程を入れなくても分かりやすく、活用しやすい。
- ・指導案を書く段階では、模擬授業等を取り入れながら具体的に授業の構成や発問を検討することが効果的である。模擬授業を取り入れることを明確に示すとよい。

6 授業づくりチェックシートⅢの開発

6.1 授業づくりチェックシートⅢの作成

5.2のインタビュー調査及び5.3の検討を基に「授業づくりチェックシートⅢ」を作成した。(図3)

まず、10の「内容」を①～⑩の項目とし、「話題にしたこと」を「検討・確認する内容」に変え、書かれていた事柄を加筆・修正した。

新たに加えたのは、「②教材研究」である。指導案を書き始める前に手順があることを示した。教材研究の段階をふまずに授業を考える事ができないことや、教材研究の場面でも部会研修を行うことがあるからである。

また、「③指導案を書き始める」と表記することで、「④本時の指導案を書く」と並行して進めていることが伝わるようにした。

	項目	検討・確認する内容
①	教科・単元の決定	児童の実態・教師の願い・研究主題・学習内容
②	教材研究	教材分析・学習指導要領・学習課題・資料の収集
③	指導案を書き始める	教材観・研究主題との関連・全体計画・本時案
④	本時の指導案を書く	★模擬授業 学習課題・本時のねらい・評価・言語活動
⑤	単元の導入を考える	★模擬授業 児童の意欲と問題意識が高まる手立て
⑥	毎時間の授業の検討	★模擬授業 学習課題・板書・ノート・ICT活用・掲示物 教師の発問、指示・机間指導・本時との関連
⑦	普段の授業を見直す	☆授業を参観 学習規律・教室環境・項目⑥の内容の確認
⑧	本時のトライをする	☆授業を参観 項目⑥⑦の内容の確認・指導案との統一性
⑨	共通理解をする (全体研修会)	項目②～⑧までの説明・確認 ※指導助言者との打ち合わせ
⑩	前日までの模擬授業	★模擬授業 板書・発問・ICT活用・ノート・掲示物・環境
⑪	研究授業当日	☆授業を参観 授業記録・児童観察
⑫	事後研修会	協議会・指導助言

図3 授業づくりチェックシートⅢ

④⑤⑥⑩の模擬授業、⑦⑧の普段の授業を見合うことを部会研修では重視していることが分かるように、「授業づくりチェックシートⅢ」に「★模擬授業」「☆授業を参観」とした。

7 まとめ

研究授業に向けての手順が分かる「授業づくりチェックシート」の開発し、聞き取りや実施・評価を通してその改善を図った。

その結果、次のようなことが明らかになった。

- ・「授業づくりチェックシート」を活用することによって、研究授業の経験の少ない若手教員が、見通しをもって研究授業の準備し、部会研修を授業づくりに生かすことができる。
- ・「授業づくりチェックシート」を基に、研究授業の進め方について全教員が共通理解することで、中堅・ベテラン教員による授業力の向上にOJTが促進される。

修正した「授業づくりチェックシートⅢ」は平成30年度後期の研究授業に向けて活用していく予定である。

今後も、さらに「授業づくりチェックシート」の改善を図り、部会研修を充実させ、教員の主体性を生かした校内研修に努めていきたい。

<参考文献>

文部科学省（2017）「教員勤務実態調査（平成28年度）の集計（速報値）について」